

洪水に備えよう

洪水のおそれがあるとき（旧吉野川の水位）

旧吉野川では、河川が増水した場合に次の水防警報や水位情報が発表されます。水位に応じて避難勧告等が発令されます。早めの避難を心がけましょう。

平成30年6月時点
大寺橋水位観測所：板野町川端字関ノ本47

水位危険度レベル	水位の名称等	基準からの水位上昇 (m)	内容
レベル5	氾濫の発生		氾濫水への警戒を求める段階。
レベル4	氾濫危険水位から氾濫の発生まで		避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階。いつ氾濫してもおかしくない状態。
	---氾濫危険水位-----	---2.85m---	
レベル3	避難判断水位から氾濫危険水位まで		避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階。
	---避難判断水位-----	---設定なし---	
レベル2	氾濫注意水位から避難判断水位まで		氾濫の発生に対する注意を求める段階。水防団による堤防の巡視等、水防活動を実施する。
	---氾濫注意水位-----	---2.15m---	
レベル1	水防団待機水位から氾濫注意水位まで		水防活動の準備を行う目安となる段階。気象情報等に注意。
	---水防団待機水位-----	---1.25m---	

【避難指示】の発令：避難勧告発令後も、水位4.0mを超過し、計画高水位の4.827mに迫る勢いで上昇した場合
 【避難勧告】の発令：大雨警報（浸水害）が発表され、3.5mを超過し、さらに上昇傾向にある場合
 【避難準備・高齢者等避難開始】の発令：大雨警報（浸水害）が発表され、氾濫危険水位2.85mを超過し、さらに上昇傾向にある場合

洪水のおそれがあるとき（宮川内谷川の水位）

宮川内谷川では、河川が増水した場合に次の水防警報や水位情報が発表されます。水位に応じて避難勧告等が発令されます。早めの避難を心がけましょう。

平成30年6月時点
七条水位観測所：上板町七条字挽木

水位危険度レベル	水位の名称等	基準からの水位上昇 (m)	内容
レベル5	氾濫の発生		氾濫水への警戒を求める段階。
レベル4	氾濫危険水位から氾濫の発生まで		避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階。いつ氾濫してもおかしくない状態。
	---氾濫危険水位-----	---3.50m---	
レベル3	避難判断水位から氾濫危険水位まで		避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階。
	---避難判断水位-----	---2.50m---	
レベル2	氾濫注意水位から避難判断水位まで		氾濫の発生に対する注意を求める段階。水防団による堤防の巡視等、水防活動を実施する。
	---氾濫注意水位-----	---2.50m---	
レベル1	水防団待機水位から氾濫注意水位まで		水防活動の準備を行う目安となる段階。気象情報等に注意。
	---水防団待機水位-----	---1.50m---	

【避難指示】の発令：避難勧告発令後も、宮川内ダムが200t/s以上放流した場合。又は、水位3.5mを超過し、さらに上昇傾向にある場合。
 【避難勧告】の発令：大雨警報（浸水害）が発表され、氾濫注意（避難判断）水位2.5mを超過し、宮川内ダムが150t/s以上放流の場合
 【避難準備・高齢者等避難開始】の発令：大雨警報（浸水害）が発表され、水防団待機水位1.5mを超過し、宮川内ダムが100t/s以上放流の場合

事前の備え

■避難場所と避難経路の確認

ご自宅から近い避難場所や避難経路などを、このハザードマップを活用して確認しておきましょう。また、実際に歩いて、安全に避難できそうか、避難場所までどのくらいの時間がかかるか確認しておきましょう。

■家のまわりの点検

家の前の側溝が詰まっていないか確認し、水はけを良くしておきましょう。また、風で飛ばされる植木鉢やゴミ箱などは固定するか、家の中などに移動させておきましょう。



■防災訓練への参加

防災訓練は、安全な避難方法などを確認することができる場です。また、住民同士で災害に備える「共助」を高める機会にもなります。積極的に参加しましょう。



■非常持ち出し品の確認

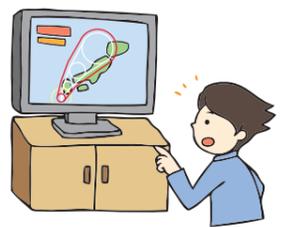
被害によっては、避難を余儀なくされることもあります。避難する時に持ち出す『非常持ち出し品』を事前に準備し、確認しておきましょう。

■飲料水 ペットボトル入りは持ち運びに便利。 	■懐中電灯 停電時や夜間の避難には必需品。 	■救急薬品 消毒薬やばんそうこうなど。持病のある人は常用薬も。
■非常食 調理せずに食べられる物。賞味期限をチェックして定期的に交換を。 	■携帯ラジオ FM、AMの両方聴けるタイプを。予備の電池も忘れずに。 	■ヘルメット(防災ずきん) 飛来物や落下物、転倒事故から頭部を守るため。
■その他 現金(公衆電話用の小銭も用意)、オイルライター、身分証明書のコピー、軍手、衣類など。 		

避難時の心得

■正確な情報収集と早めの避難を！

テレビやラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意し、危険を感じたら早めの避難をすることが重要です。町の広報車や警察・消防などからの呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。



■動きやすい服装と助けあいを！

避難する際は、持ち物はリュックに入れ、手は自由にし、運動靴をはくなど動きやすい服装にしましょう。また、高齢者や障がい者などの方々が避難を必要としている際には、助けあいましょう。

■避難ルートは浸水や土砂災害を避ける！

避難ルートは浸水や土砂災害の危険がある場所は避けましょう。また、洪水によりはん濫した水は土砂が流れ込んでいるため茶色く濁っており、水面下の水路や道路の溝、ふたが開いたマンホールの穴が見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、長い棒で足元の安全を確認しながら移動しましょう。



■身の安全を確保する！

避難のために外へ出ることが危険な場合、無理をせずに、自宅の2階や近隣の高い建物へ避難することが適切な場合があります。突発的な豪雨時などに、身の安全を確保することも想定しておきましょう。